環境大臣賞/環境SDGs賞

西宮市立山口中学校

モリアオガエル保存会

絶滅危惧種「モリアオガエル」の保護増殖活動

保存池での卵塊採取

真夜中の産卵

卵塊を飼育小屋に吊す

活動期間 2017年4月～（90回ほど活動）

構成人数 中学生80名・大人30名

SDGsテーマ

推薦メッセージ

西宮市立山口中学校では、昭和44年（1969年）より理科部を中心にモリアオガエルの保護活動を継続的に行っており、平成18年には旧環境庁から地域環境保全功労者表彰の「環境大臣賞」を受賞している。また、理科部の廃止後も山口中学校が中心となって「モリアオガエル保存会」を発足し、活動が評価された結果、昨年の令和2年度日本鳥類保護連盟が主催する、野生生物保護功労者表彰における文部科学大臣賞を受賞している。このように、この活動は県内外にも大きく評価され、今後の活動の継続性や発展性が求められているところである。このような時代の要請もあり、保存会ではこれまでの50年の歴史を生かし、生徒ボランティアによる保護増殖活動・地域への啓発及び情報発信・地域ボランティアとの協力による、ふるさと意識の醸成を活動の柱とし、様々な企画を推し進めている。もとよりボランティア活動が盛んであった山口中学校は、保護増殖活動のボランティアを募り、主体的に参加した生徒が中心となって活動を知らない生徒や地域への啓発を行っている。変容する町に対する今後のあり方や捉え方について考えることで、地域に対する愛情を育み、ふるさとの自然に対する愛着や誇りを育んでいる。以上のことにより、本会の活動を推薦するとともに、今後も時代の要請を鑑みながら継続的かつ発展的な活動の存続を期待するものである。

西宮市立山口中学校　校長　岡 敏行

活動内容

毎年5月になると、全学年を対象とするモリアオガエル保存会のボランティアが募集され、保護増殖活動や啓発の中心的な役割を担う生徒が参加する。週末を中心に池の環境保全調査と卵塊採集を行い、卵塊採集は5月下旬から6月中旬に行われ、保存会のメンバーである教職員も、ボランティアとして多数参加し、生徒の指導に当たる。採集後は校庭隅に設置されている飼育小屋で、卵塊から孵化したオタマジャクシを飼育するため、生徒は当番制で毎日朝夕2回の活動を行う。卵塊があれば乾燥してしまわないように霧吹きで水をかけ、オタマジャクシになると人間の赤ちゃんが食べる「ベビーフード」を必要量与える。また、水質が悪くならないように、小屋に設置された12個の水槽の水質管理も生徒が行う。自然界では多くの天敵が存在するため、孵化した幼生の多くはすぐに捕食され命を落とす。また、雨が降らずに日照りが続けば、1つの卵塊に存在する、約300個以上もの卵は全て死滅してしまう。そのため、オタマジャクシ自ら天敵から身を守りやすくなる後肢が生える約1ヶ月間飼育を続け、採集した元の池に放池（放流）するために再び山野を分け入る。7月に行われるこの放池活動が、これまでの保護増殖活動の苦労が労われる最大の瞬間となる。地域のまつりや各地での地域イベントで展示ブースを設け、今年の活動の最新情報を提供し、保護活動の必要性を啓発している。広

活動内容

報・啓発活動の甲斐もあって、他団体からの問い合わせや、見学を求められるようになり、山口地域で自動車製造を行う企業からは、環境保全を行う同じ団体として連携の要請を受けている。また、市内の小学校からは、環境保全や命の尊さを学ぶ環境学習の拠点としての要請があった。長年理科部だけの活動であった保護活動が、保存会の活動になったことで広報活動が進み、地域保護者から活動参加要望の声や、地域諸団体による協力体制も拡がりつつある。特に活動の要石となるべく「モリアオガエルの郷構想」を策定し、校内に石碑・石像を建立すると共に、山口地区の生態系を守り、生物多様性が失われないよう新たな課題に挑戦すべく、「学校ビオトープ」を造成し「保存池の維持・管理」「特定外来生物の駆除」等に取り組んでいる。

生徒が作ったビオトープ池

01.活動をはじめたきっかけ

50年以上理科部が続けてきた保護活動を保存会が継承

昭和44年より50年以上続けられてきた本校理科部によるモリアオガエルの保護増殖活動が、平成30年の理科部廃止に伴い、存続が危ぶまれることとなった。そこで、本校職員を中心に「モリアオガエル保存会」を発足し、絶滅危惧種であるモリアオガエルに対して、主体的に取り組む生徒の代表としてボランティアを募ることとなった。生徒による保護増殖活動や学校全体での環境学習を、継続的かつ開発的に推し進めることが目的で始められた。

02.活動から学んだ・感じたこと

命の尊さや緑地環境の変化を最前線で学ぶことができる

この活動の中で、生徒が最も興味・関心を持つのが「絶滅危惧種の飼育に携わることができる」ということである。５０年以上続く歴史のある活動であるとともに、歴史を受け継ぎ、保護増殖の灯火を絶やしてはならないという責任感が、さらに生徒の意欲をかき立てている。卵塊を採集してから孵化、飼育、放池（放流）までの約２ヶ月の間、生徒はオタマジャクシの飼育を通して、普段身近に感じることのできない、命の尊さを味わうことになる。すべての卵が孵化するわけでなく、成体になるまでに様々な犠牲があることを知り、ひとたび油断して飼育方法を誤れば、たくさんの命を自らの手で奪ってしまうことを知ることもある。また、遠景で俯瞰していた自分たちの緑地環境が、気づかないうちに悪化し、池自体の存続が危機に見舞われていることを最前線で学ぶことができる。

03.継続するためのこれからの工夫

造成した池を有効活用し
より効果的な飼育方法などを研究

昨年飼育小屋横に「学校ビオトープ池」を造成した。ここで屋外飼育を行い、夜行性であるためにまだ解明されていないモリアオガエルの生態の研究・調査を行う。これは，コンクリートで囲まれた飼育小屋での屋内飼育との比較が容易にできるだけでなく，保存池での効果的な飼育方法を見いだすきっかけにもなる。また，ビオトープでの飼育が可能となれば，保存池にまで足を運ばなくても，中学校内で誰もが容易にその観察を行うことができる。自然界での卵塊の変容を，容易に観察することができることは，多くの方々にモリアオガエルの生態を知ってもらい，地域の環境問題を考えるきっかけとなる。

今後は地域や地域諸団体，SDGsを進める企業や関係機関とも協力しながら，開発や自然災害で存続が危ぶまれている保存池の維持活動や外来生物の駆除など、保存会活動のあるべき方向性を見いだしたい。

活動の略歴

平成２９年	理科部の廃部が決定、保存会が発足
令和元年	保護活動50周年、朝日・神戸新聞で紹介される
令和２年	野生生物保護功労者賞文科大臣賞受賞
	博報堂教育財団　博報賞　奨励賞受賞
	兵庫県グリーンスクール表彰
令和３年	ボランティア・スピリット・アワード　コミュニティ賞受賞
	第11回毎日地球未来賞　奨励賞受賞
令和４年	ひょうごSDGｓスクールアワード最優秀賞受賞
	SDGｓ探究アワード2022　審査員特別賞受賞